ゴリラからの警告「人間社会、ここがおかしい」(3)

けんかの種となるような食物を分け合い、仲よく向かい合って食べるなんて、サルから見たらとんでもない行為（こうい）である。①なぜこんなことに人間はわざわざ時間をかけるのだろうか。

それは、相手とじっくり向かい合い、気持ちを通じ合わせながら信頼（しんらい）関係を築くためであると私は思う。相手と競合しそうな食物をあえて間に置き、けんかをせずに平和な関係であることを前提にして、食べる行為を同調させることが大切なのだ。同じ物をいっしょに食べることによって、ともに生きようとする実感がわいてくる。それが信頼する気持ち、ともに歩もうとする気持ちを生みだすのだと思う。

ところが、前述した近年の技術はこの②人間的な食事の時間を短縮させ、個食を増加させて社会関係の構築を妨（さまた）げているように見える。自分の好きなものを好きな時間と場所で好きなように食べるには、むしろ相手がいないほうがいい。そう考える人が増えているのではないだろうか。

でも、それは私たちがこれまで食事によって育ててきた共感能力や連帯能力を低下させる。個人の利益だけを追求する気持ちが強まり、仲間と同調し、仲間のために何かしてあげたいという心が弱くなる。勝ち負けが気になり、勝ち馬に乗ろうとする傾向（けいこう）が強まって、自分に都合のいい仲間を求めるようになる。つまり、現代の私たちはサルの社会に似た閉鎖（へいさ）的な個人主義社会をつくろうとしているように見えるのだ。

（山極寿一『ゴリラからの警告「人間社会、ここがおかしい」』
毎日新聞出版　による）

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「なぜこんなことに人間はわざわざ時間をかけるのだろうか」とあるが、この問いの答えとなるように、解答欄(かいとうらん)に当てはまる言葉を本文中から書きぬきなさい。

相手と争うことのない平和な関係であることを前提に、相手と同じものを食べることで、

[　　　　　　　]ため。

(2) ――線②「人間的な食事」とはどのような食事か。適当なものを選びなさい。

ア 相手と同じ物をいっしょに食べ、気持ちを通じ合わせる食事。
イ 技術の進歩によって、短時間でとれるようになった食事。
ウ 個人の自由を尊重し、各自が好きなものを食べる食事。

〔　　〕

(3) 人間は、他者と向かい合って食事をとることで何を身につけるか。本文中から九字で探し、書きぬきなさい。

[　　　　　　　　　]

(4) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 近年の技術によって食事の時間が短くなったことは、かえって個人の自由を奪(うば)うことになった。
イ 近年の技術によって個食が増えたことは、社会的な関係の構築を妨げている。
ウ 近年の社会関係の変化によって、人々は利害を超(こ)えた仲間を求めるようになっている。
エ 近年の社会関係の変化を反省し、サルの社会に似た開かれた社会を目指すべきである。

〔　　〕